



## 02

### 優秀賞 東急池上線旗の台駅

受賞者  
 施主 東急電鉄株式会社  
 設計者 株式会社アトリエユニゾン  
 施工者 清水建設株式会社

東急池上線旗の台駅は開業以来約70年の間、地域住民に親しまれ、人々の暮らしを支えてきた。一方、施設の老朽化と利用者数の増加に伴う朝ラッシュ時の旅客流動上の課題を抱えていた。本プロジェクトは、これらの課題を解決するとともに、多摩産材を活用した温かみのあるデザインの空間を設えることで利用者の同駅への愛着を醸造することを目的としたリニューアルである。

新たに建て替える屋根は軌道側に対して架構を開いた構造計画とし、ホーム上に設置される柱の本数を出来る限り少なくするなど、乗降客の動線に最大限配慮した。365日電車の運行・駅施設の利用を維持しながら建替工事を実施するため、既存屋根を残したままその上部に新しい屋根を組み上げる架構とした。

木造の架構は、施工ヤードの狭さや作業効率などを意識し、重機で建て入れる大判CLTと、軽量で一人でも取りまわし可能な定尺材から切り出した105mm角の製材を併用した。夜間工事が必須となる施工条件や、隣地が迫る狭小な敷地条件への対応から、可能な限り人力で施工が行えるようにしたものである。小径材の採用は、空間的に軽やかな印象を与えることも意図している。木材を「あらかわし」とすることで、木の肌合いやあたたかさを利用者が身近に感じ、経年変化により愛着がわくホーム空間を実現した。地域産木材（多摩産材）の活用を推進し、都市部における多量の炭素貯蔵に貢献する等、木質材料特有の長所を最大限に活用した。



### 複数の素材と工法を生かした構造計画

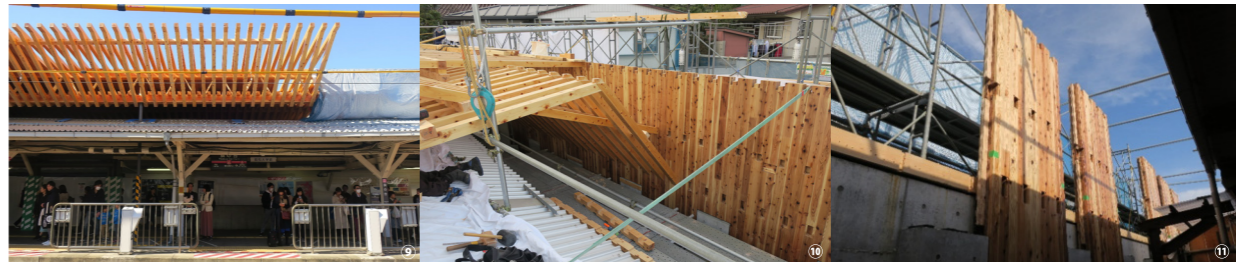
東京都の地域産材である多摩産スギ及びヒノキの有効活用を念頭に計画し、ホーム全長（最大約69m）に多摩産ヒノキの105mm正角材を300mm間隔で並べた支点桁架構と方杖庇によって片流れ屋根を支える木造上家とした。背面の壁面は、多摩産スギで製作した大判のCLT（厚150mm、幅1.2m、高さ約4~6m）と小判サイズ（幅0.6m）のCLTを交互に並べたものである。大判のCLTは、1.8m間隔で高さ約2.5mのRC造の連壁に設けたリブの間に落とし込んで一体化し、CLTの柱脚をコンクリート基礎で拘束した掘立壁柱とした。大判のCLTの間には、小判のCLTを挿入して、大判と小判サイズのCLTを交互に並べ、RC造の連壁と一体となったCLT連続壁が105角製材の支点桁架構を受ける構成である。

一方、開放的なホームの軌道側は、10.8~14.4mスパンで組んだ鉄骨ラチス梁を径100mmの丸鋼柱で支持し、平角材で挟み込んだ鉄骨ラチス梁の上下弦材に対して、支点桁架構や方杖庇を構成する105角の材を渡り頭で預けて緊結した。支点桁や方杖庇の継手仕口は、在来軸組工法用プレカットを多用し、ホゾ差しに対し木質構造用ねじで緊結したシンプルなものとし、複雑な加工や特殊な製作金物が不要なディテールとすることで工場加工や建方時の作業の効率化を図った。



▲リニューアル前・既存上家の様子

### 【工事の様子】



▲既存上家の上部に新設の上家を構築している様子を見ながらホームより見る。365日駅の営業を続けながら施工を行なっている。  
 ▲既存上家で正角材の支点桁架構を組み上げている。右側に見えるのがCLT壁柱。  
 ▲RC連壁にCLT壁柱が並べられていく様子。

photo ①~⑪ 09.design、桜建築事務所

### 受賞概要・講評

品川区に所在する東急池上線旗の台駅のホーム上家リニューアル工事。多摩産材をホーム上家の垂木（製材）や壁面（CLT材）へ活用している。既存屋根を残したまま、その上部に新しい屋根を組み上げ架構とすることで、電車の運行・駅施設の利用を維持しながらの建替工事を達成した。本作品については「105角製材とCLT材を適材適所に活用し、利便性のある美しいデザインにまとめられている点」「都市の風景として印象的で、木の温かみや包まれ感を感じる点」等が評価された。

### メンテナンス性と意匠性を両立させた設備計画

駅施設・上家においては、照明器具以外にも通信・信号系の機器や運行表示器など、多種多様な設備機器が添架される。本施設では木の良さが感じられるように構造材をあらかわしとしている。あらかわしであるがゆえ、ともすれば設備配線類が露出し、煩雑な印象を与えることに繋がりがかねないが、そのようにならないよう、メンテナンス性ももちろんのこと、見え掛かりを考慮し、支点桁架構内部に配線ルートを設置するなどの工夫を施している。

照明計画においては、木のあたたかみをより感じられるよう、同路線の他駅に比べ色温度を低く設定した。灯具についても、正角材の支点桁架構の検討の際に、器具のサイズや取り付け角度など、詳細な検討を重ねた。これらの設備計画を建築と一体的に進めることで、意匠と機能性を両立したホーム空間を実現した。

